



みんなが主役 豊岡小

大 楓



平成29年9月4日 No.8
銚子市立豊岡小学校

平成29年度 2学期スタート

9月1日、2学期がスタートしました。朝、校門で迎えたとき、元気に挨拶をする子もいれば、夏休みの生活から抜けきれずに少し眠そうな子など様々でしたが、どの子の表情も明るく2学期への意欲を感じました。また、始業式では、学年代表の子どもたちから2学期の抱負の発表がありました。皆しっかりとそれぞれの抱負を発表し、2学期の頑張りに期待が高まりました。

夏の思い出 その1 ～夏祭り～

7月29日(土)豊岡地区の夏祭りが開催されました。豊岡小職員は「射的」「輪投げ」「綿菓子作り」を出店しましたが、子どもたちにも楽しんでもらえたようです。夜店、カラオケ、鳴り物と盆踊りなど、多くの演し物があり、子どもたちには夢のひとつときだったのではないのでしょうか。また、今年度は春日小学校にも夏祭りのチラシを配布し、春日小学校の親子の姿も見られました。保護者や地域の方々のおかげで、子どもたちは、十二分に楽しんでいました。今年も子どもたちの心に「豊岡地区の楽しい思い出」として残ったことでしょう。



夏の思い出 その2 ～かえでプラン～

8月3日(木)、5・6年生がかえでプランで育ててきたメロンを収穫しました。畑の先生の指導のおかげで、合計45個のメロンができました。子どもたちは、ほんの一端ですがメロン作りの苦勞と収穫の喜びを知ることができました。畑の先生の飯嶋宏幸様、岩井康様、星野昭博様、お忙しい中、子どもたちへの指導、畑の管理等大変ありがとうございました。



2学期のスタートに当たって

9月1日の始業式では、子どもたちに次のような話をしました。

8月下旬に、テレビ放送で一人のお母さんのことを取り上げていました。柳田さんという2人の子を持つお母さんの話です。柳田さんは16歳の頃から、病気のために目が少しずつ見えなくなってきました。結婚して1人目の子どもを産んだときに更に視力が失われ、2人目の子どもを産む頃にはもう子どもの顔がわからないくらいになってしまいました。柳田さんは自分で生んだ子どもの顔がわからないことがとても悲しかったそうです。しかし、現在は、目が見えなくても、実家のメロン農家の手伝いをしたりギターを習い始めたりと新しいことに挑戦されていて、子どもの学校で本の読み聞かせにも挑戦しています。

柳田さんは、16歳の頃から少しずつ見えなくなってきて、できることが一つずつ減っていくことがとてもつらかったそうです。今まで当たり前でできていたことができなくなっていくのは本当につらかったことでしょう。しかし、現在は、目が見えなくてもできることを一つずつ増やそうと努力しています。みんなは、目も見えるし、話すことも聞くこともできるし、手も足も自由に動きます。これなら、いろいろなことに挑戦できます。柳田さんは、できることを一つずつ増やすと話していましたが、元気で丈夫な体をもつみんなは、柳田さんに負けないようにできることをどんどん増やしてください。

豊岡小学校職員は、2学期も子どもたちのために一丸となって進んでいきます。保護者の皆様にご協力いただきながら、さらによい学校にしていきたいと思っております。よろしくお願いたします。